



～ 5月にご講演をいただいた石破茂氏が内閣総理大臣に就任 ～



この5月13日(月)に当倶楽部の講演会で「内外の諸課題」という演題でご講演をいただいた石破茂氏が10月1日第102代内閣総理大臣に就任されました。心よりお祝い申し上げます。

また、同日当倶楽部の会員で広報委員として御貢献いただいた佐藤文俊君(元総務省事務次官)が内閣官房副長官に就任されました。心よりお喜び申し上げるとともに今後のご活躍をお祈りいたします。

林芳正内閣官房長官には外相時代の昨年1月に御講演をいただいております、石破内閣では総理官邸の首脳が揃って当倶楽部とのご縁のある方々となりました。

<以下では5月の石破総理のご講演の概要をご紹介します。>

政治資金を巡る問題などを背景に政治改革が大きなテーマとなり、本年4月28日の衆議院の3選挙区での補選では野党候補が当選するなど厳しい政治状況が続く中、これまで防衛大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣、また自由民主党の政務調査会長、幹事長等を歴任された石破茂先生にお越しいただき、内外の諸課題についてご講演をいただいた。



父(石破二郎)は内務省出身で、戦中はスマトラで占領地行政などにも携わった。戦後は警察予備隊の創設に携わり、自衛隊法の立案にも関わった。その後、建設省に転じ事務次官まで務めた。退官後、佐藤栄作氏や田中角栄氏に東京都知事に推されたが、それを断り自らの出身地である鳥取県の知事となり、参議院議員も務めた。父からの教えは「人間偉くなろうと思っ

てはいけない」ということ。
父が亡くなった後、1986年の衆議院選挙で当選し、以来38年も国会議員をやってきた。その間、幹事長や政調会長も務め、小泉内閣では防衛庁長官として有事法制や自衛隊のイラク派遣などに取組んだ。また、福田内閣では防衛大臣としてテロ対策特別措置法の

延長のため、町村官房長官や高村外相とともに街頭演説を行ったことが記憶に残る。

今回の衆議院補選、確かに負けたが、次につながる戦いはできたと思う。ただ、今回の選挙では、60才台、70才台男性の4割が野党に投票したといわれる。また、30才台の

人たちが新聞の定期購読をしている人は3割しかないという。これは、日本だけでなく、アメリカでもニューヨークタイムズやワシントンポストの読者はこの20年で半分以下になっている。新聞なら各紙の見方の違いを比較できるが、スマホでは無理だ。平成という時代を総括することが必要だが、間違いなく「戦後が終わった」といえるのではないか。

民主主義も変わった。投票率が2割ということさえある。立候補者も減り、無投票が増えている。投票は権利であると同時に義務だ。投票を義務化している国は多い。白票でもよいから投票をすべきだ。メディアと権力の癒着という問題もある。「昭和16年夏の敗戦」という本がある。日米戦わば必ず負けるという分析がありながら、それが退けられた。外交も経済政

